

南中だより

清水町立南中学校

No. 6

令和7年9月9日発行

学校教育目標 「豊かな心で しなやかに 明日の世界をひらく」



広島市への平和研修に参加しました！



清水町では、平成21年6月19日に「核兵器廃絶平和都市宣言」を行い、核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さ、そして平和の尊さについて考える機会として、町内中学生の代表を被爆地である広島市に毎年派遣し、現地で平和研修を行っています。

今年度は、8月5日（火）、6日（水）の二日間、本校2年生がこの研修に参加し、8月6日（水）に開催された平和記念式典にも参列するという大変貴重な経験をしてきました。

研修に参加した2名の生徒の感想を以下に紹介します。



私は今回の広島での研修で多くのことを学ぶことができました。

研修で一番印象に残ったのは、被爆者の八幡照子さんのお話です。八幡さんによると、原爆が落ちたあと、外に出ると黒い雨が降っていて、人々が市中から逃げているそうです。その姿は、全身に大火傷を負い、皮膚はめくれてぼろ布のように垂れ下がっていたそうです。原爆が落ちてから3日経った8月9日、学校に行くと教室にも廊下にも大火傷を負った人々がぎっしり横たわり、亡くなった人々は運動場に掘られた穴に放り込まれて火葬されていたそうです。その遺体の中には火が広がることを防ぐための作業をしていた学生が多くいたそうです。八幡さんの話してくれた当時の光景を想像して、私は地獄のように思え、恐ろしくて胸が締め付けられるようでした。

私は改めて核兵器の恐ろしさを知り、核兵器があっては本当の平和は訪れない、核兵器のない世界を目指さなければならないと強く感じました。

被爆から80年。当時を知る人は年々少なくなっています。被爆者のつらい経験や思い、核や戦争の悲惨さを伝えていくのは唯一の被爆国である日本の使命です。私は今回広島で感じたこと、考えたことを一人でも多くの友人に伝えていきたいと思います。自分たちが日常の中でできることをしっかりと考え、本当に平和な世の中のために行動していきたいです。



私たちの住む日本は、戦争のない日常が続いています。毎日学校に行き、友達と笑い合い、家族と食卓を囲むことができる生活は、一見、「平和」そのもののよう感じます。

しかし、本当にそうでしょうか。私はこの夏、広島で行なわれた平和式典に参加し、「平和とは何か」について深く考えるようになりました。

式典では、多くの人が原爆ドームの前に集まり、静かに目を閉じて祈りを捧げていました。鐘の音が厳かに響き渡り、会場全体を追悼の気持ちが包み込みました。その中で私は、「今、自分が生きているこの時間は、多くの犠牲の上にあるのだ」と強く実感しました。

広島に落とされた原爆は、上空約600mで炸裂し、強烈な光と高温、爆風が一瞬で街を飲み込みました。多くの家や建物は跡形もなく壊され、約14万人もの命が奪われました。生き延びた人々も重いやけどや放射線による病気に苦しみ、さらには差別や偏見にさらされ、家族を失った深い心の傷を抱えながら生きてきました。その事実を知り、胸が締め付けられるように悲しくなり、しばらく言葉が出ませんでした。

広島平和記念資料館では、皮膚が焼けただれ苦しみ人、亡くなった子どもを抱えて泣き崩れる両親、放射線の影響で10数年後に命を落とした人の写真や遺品が展示されていました。もし自分や家族がその立場だったらと思うと、恐ろしくてたまりませんでした。そして、今こうして家族や友だちと笑い合える毎日が、どれほど幸せで、かけがえのないものなのかを心から感じました。

また、被爆者のお話を聞きました。その中で、「こんなことは、もう二度と起きてほしくない」という言葉が心に深く残りました。あまりにも辛い経験をしてきたはずなのに、それでも未来の平和を願い、私たちに戦争の恐ろしさと平和の大切さを伝えてくれるその強さと優しさに私は胸が締め付けられ目頭が熱くなりました。

戦争には、様々な理由があるのかもしれませんが、けれど、人の命を奪うことは絶対に許されません。私たちはお互いを助け合い、認め合って生きていくべきです。中学生である私たちには、戦争や差別をすぐになくす力はないかもしれませんが、でも、小さな行動を積み重ねることで、きっと未来は変えられると信じています。

例えば、いじめや差別を見かけたら「それはよくない、やめよう」と勇気を出して声をかけること、困っている人を見て見ぬふりをしないこと、仲間はずれにしないこと、こうした行動は小さく思えるかもしれませんが、必ず誰かを救い、優しい気持ちを広げるきっかけになります。また、ボランティア活動に参加したり、平和を願うポスターを描いたりすることも平和への大切な一歩になると思います。

私は、広島で見たこと、感じたこと、学んだことを多くの人に伝えていきたいと思っています。それは一人だけでは難しいかもしれませんが、しかし、一人一人が平和を願い、力を合わせれば、必ず平和な未来を築く大きな力になります。私はこれからも、小さな行動を大切にしながら、戦争のない世界を歩んでいきたいです。

